



# 知行院便り

発行／宗教法人知行院 東京都世田谷区喜多見 5-19-2 TEL 03-3417-3456 FAX 03-3417-3000



ごあいさつ

知行院住職 坂本観泰

昨年の冬は、いわゆる暖冬でした。厳しい寒さの日は少なく、雪もあまり降りませんでした。通説では、暖冬の次の夏は「冷夏」になると言われていますが、今年は夏も全国的に気温が高く、「猛暑」となると予想されているようです。降水量も例年に比べ多く、大雨による災害に注意が必要な夏だとか。

また新年早々能登半島で震災があり、半年が経った今でも被災地は復興の途上にあります。あらためて被災された方々に心よりお見舞い申し上げるとともに、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りしたいと思います。

いっどこで何が起こるかわからないのが自然災害です。日頃から災害に備える心が必要不可欠です。災害においては「共助」の精神も大切です。地域の一人一人が互いに助け合い、支え合うことで、困難な状況も乗り越えることができると思います。

天台宗が推進している「一隅を照らす運動」では、地球救援活動と呼ばれる活動が進められています。万が一に備えて基金を募ることを始め、被災地での瓦礫の撤去作業、座礁船の重油回収作業、また途上国で学校の建設作業等、その活動は多岐にわたります。

この度、ご提案させていただくフードドライブへお供物を提供する活動も、「共助」という点から災害に備える心の一端と考えております。

ご先祖様への感謝の気持ちを更にその先にお届けさせて頂ければと思っております。

## 教えて、住職さん！

## 第十三回 法名（生前戒名）と発心会

お寺のこと、仏教のことで、知っているようでよく解らないことを、ご住職にインタビュ―して教えていただきます。第十三回目は、法名（生前戒名）と発心会について解説していただきます。

（聞き手 編集担当 薄井秀夫）

**聞き手** 最近、生前に戒名が欲しい、という人が増えていると聞きます。

**住職** 生前にいたたく戒名のことを、法名といいます。知行院でも、生前に法名をいただきたいという方が増えてきました。とてもいいことだと思えます。

もともと天台宗では、生前に檀信徒に法名を授ける場合、天台座主猊下が授戒会という儀式を行なう必要があります。それを、各寺院でも行えるようにしたのが発心会です。

知行院では、生前に法名を受ける方が少しずつ増えています。それを受けて数年前から、発心会を行ない、法名をお授けするようにしています。

**聞き手** 発心会というのは、どういう儀式なのでしょう。

**住職** 発心会の「発心」は「発菩提心」とも言います。「発菩提心」とは、「菩提心」

を「発」すこと、つまり悟りを目指す心をおこすことです。発心会は、教えに導かれて悟りを目指すことを仏さまの前で誓う儀式でもあるのです。

その誓いの証としての名前が法名です。それゆえ法名には、仏教の教えに関わる文字を使います。俗名に使われている文字を入れて欲しいと言われることもあります。が、できるだけ悟りの道標となるような文字を使うようにしています。

また亡くなった時の戒名もそうですが、いい法名、そうでない法名というのはありません。もちろん、高い法名、安い法名というのありません。法名は、それぞれの人に最も相応しいものをつけています。

**聞き手** 悟りを目指すということはどういうことなのでしょう。

**住職** 正しい生き方をするという約束を仏さまとするということです。三聚淨戒と

言って、悪いことをしない、良いことを進んで行う、世のため人のためになることをする、という約束です。これは仏教徒としての戒でもあり、この戒を守ると誓うことから、この時に授かる名前を「戒名」「法名」と言うのです。

仏さまと約束をし、これを守っていくことで、私たちが安らかな日々を導いてくださるのです。

**聞き手** 亡くなった時につける戒名とは違うものなのでしょうか？

**住職** 亡くなった時の戒名も、生前につける法名も、意味は全く同じです。

お葬式では、引導を渡して、故人を仏道に導きます。それが発菩提心でもあるわけですが、本来は、生きてるうちに行うものです。むしろ、生前に法名を授かるほうが正式だと言えるでしょう。

せっかく授かるならば、生きているうちのほうがいいと思います。生きているうちに仏道に導かれることで、その後の生活に生かしてもらい、なおかつ後進の人たち、子どもさんやお孫さんを導いて欲しいと思います。

## 地域を支える試みにご協力ください

### —— お供物をフードバンクに

知行院では、「一隅を照らす運動」の一環として、皆さまのご支援のもとに、地域の支援活動に参加したいと考えます。そこで、年忌法要などで、仏前に供えるお供物をフードバンクの求める食材にしてお持ちいただき、お供えしたのちにフードバンクに寄付する協力をお願いしたいと思います。

この取り組みにご賛同いただける方は、是非ご協力ください。

#### ■天台宗の「一隅を照らす運動」

天台宗を開いた伝教大師最澄さまは、「一隅を照らす、これすなわち国宝なり」という教えをお示しになりました。それぞれが、社会の片隅（一隅）を照らしていくことが大切だということです。

この最澄さまの教えのもとに、天台宗では五〇年前より「一隅を照らす運動」を進めています。

知行院でも、「一隅を照らす運動」の精神に基づいて様々な活動が続けてきました。その中で今年より、喜多見地区のフードバンクに協力をしていきたいと思っています。

#### ■喜多見地区のフードバンクに

喜多見まちづくりセンターにある世田谷

区の「地域包括ケア喜多見地区事務局」で行なっている事業のひとつに、フードドライブ（フードバンク）があります。

この事業では、地域の方々に寄付を受けた食品が、社会福祉協議会を通じ、子ども食堂やミニデイ（高齢者が交流を深め、様々な活動を通して楽しく過ごす場）に提供、あるいは食の支援を必要とする家庭に配布されています。

すでに協力をされている方もいらっしゃると思いますが、知行院でも皆さんといっしょに、この喜多見地区のフードバンクに協力させていただきます。

趣旨に賛同していただける方は、年忌法要などの際、フードバンクが求める缶詰やインスタント食品などをお供え頂くだけで結構です。

#### ■故人にさらなる功德を回向していただく

年忌法要は、功德を積んでいただく行為そのものですが、フードバンクへの協力を通じてさらに功德を積み、故人への回向をしていただけるのではと思っています。

そうした意味を込めてこのボランティア事業を、「えこうプロジェクト」と名付け、「一隅を照らす運動」の一環として進めていきたいと思っています。

もちろん今まで通りのお供物も、ご本尊さまへ功德を積むことになりましたが、ひとつの選択肢として、ご提案をさせていただきます。ぜひご協力いただければと思います。

#### ■色々な食品をお供物に

「えこうプロジェクト」の趣旨に賛同いただけるお檀家の皆さまには、年忌法要などで、フードバンクが求めている缶詰やインスタント食品などの食品を、お供物としてお持ちいただき、法要後にお供物を（地域包括ケア喜多見地区事務局）に寄付させていただきます。

フードバンクへの寄付ができるのは、以

下の食品です。参考にしてお持ちください。

■ご提供いただきたい食品

- ・缶詰（肉、魚、野菜、果物等）
- ・インスタント、レトルト食品
- ・嗜好品（コーヒー、紅茶、お茶、お菓子等）
- ・乾物（乾麺、海藻等）
- ・飲料（酒類は除く）
- ・乳児用食

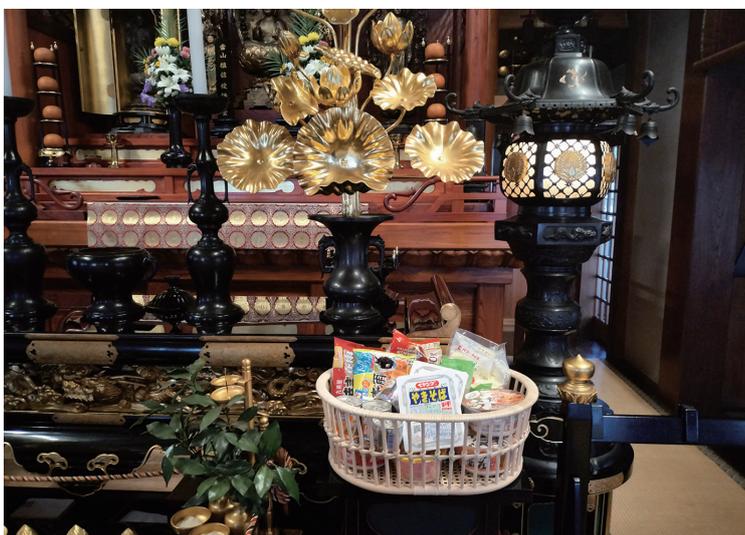
※わからないことは、知行院までお気軽にお問い合わせください。

■注意していただきたい点

- ・未開封で包装や外装が破損していないもの
- ・賞味期限が明記されており、期限まで2ヶ月以上あるもの
- ・冷蔵、冷凍でない物
- ※原則として、右記の条件を全て満たすものが回収対象となります。
- ※塩や砂糖は賞味期限の記載がありませんが、回収対象です。
- ※お供える際に食品を入れる籠をで用意しています。

■寄付の流れ

- ① 法要の日にお寺にお持ちください。
- ←
- ② 法要の際に、お供物として仏さまにお供えします。（写真参照）
- ←
- ③ 地域包括ケア喜多見地区事務局に寄付。
- ←
- ④ 地域包括ケア喜多見地区事務局から地域の福祉団体等に提供。



お供物は知行院で用意した籠に入れて本堂にお供えします。  
籠には 2,000 ~ 4,000 円程度の食品が入ります。

名僧の一言

「長寿は粗食、正直、日湯、陀羅尼、時折語下風あそばされかし」

天海僧正御遺訓 天海

天海大僧正は、徳川家康から「人中の仏なり」と重用され、秀忠、家光と三代に渡って將軍の相談役を務めた高僧として知られています

この言葉は、二代將軍秀忠に伝えた長生きの秘訣です。陀羅尼とはお経の一種、下風とはおなら。

「長寿の秘訣は粗食で正直にくらすこと。毎日入浴して、お経を唱え、おならでもしてお暮しなさい」という意味です。

美食家で、やや生真面目すぎる人物といわれていた秀忠に、質素儉約で、身も心もリラックスして暮らすようアドバイスした言葉です。

飽食が目まぐるしく変化をする時代に生きる我々の心にも届くお言葉ですね。